

愛知県感染症情報

2009年35週(8月4週8/24~8/30)

愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

連絡先: 052-910-5619(企画情報部)

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

今週の内容

トピックス
新型インフルエンザ(A/H1N1)
集団かぜの発生について
病原体検出情報
定点医療機関コメント
インフルエンザ、感染性胃腸炎、マイコプラズマ
百日咳 流行性耳下腺炎 等
全数把握感染症発生状況 ()内は件数。
結核(36)、腸管出血性大腸菌感染症(14)、レジオネラ症(2)、急性脳炎(1)、後天性免疫不全症候群(3)

新型インフルエンザ等感染症
名古屋市感染症情報(8月後半)
WHO 疫学週報抄訳
2009年8月7日(84巻32号)
ワクチンの安全性; WHO 助言委員会
2009年8月14日(84巻33号)
世界のハンセン病
定点把握感染症報告数 (保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf> をご覧ください。

トピックス

新型インフルエンザ(A/H1N1)

インフルエンザサーベイランス(図1~2)

31週報告より、インフルエンザ定点医療機関からの「インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)」には、「新型インフルエンザ(A/H1N1)」も合わせて報告されています。35週の定点当たり報告数は2.32、前週比1.0倍(450人 453人)です。

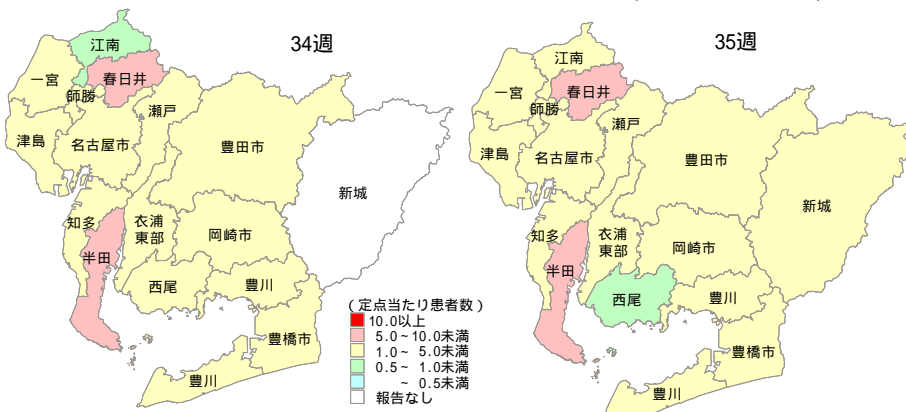


図1 保健所別インフルエンザ定点当たり報告数(34~35週)

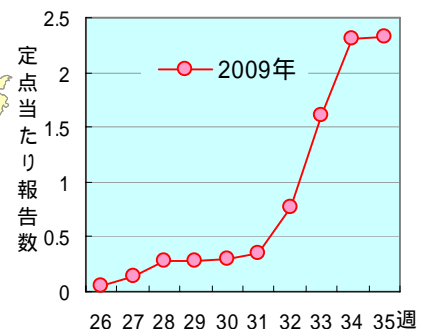


図2 2009年26週から35週のインフルエンザ定点当たり報告数の推移

クラスターサーベイランス(8月24日~8月30日報告分)

愛知県内での新型インフルエンザの集団感染が疑われる事例は39件でした。詳しくは以下のページをご覧ください。「愛知県内における新型インフルエンザの集団感染が疑われる事例の発生状況」;

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/new_inf2009_4.html

【参考ページ】

1. 感染症の発生状況[8月25日以降のサーベイランス体制等はこちらのページをご覧ください]
<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>
2. 保健所別・定点医療機関当たりのインフルエンザ報告数マップ
http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/inf lu_map_new.html
3. 2008/09 シーズンインフルエンザウイルス分離・検出状況
http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/inf bunri08_09.html
3. 愛知県の新型インフルエンザ A/H1N1 発生状況(7月23日までの全数把握時の報告)
http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/new_inf2009_3.html

集団かぜの発生について(健康対策課発表)

	発表日	管轄保健所	ネットあいち URL
第1報	8月31日	新城	http://www.pref.aichi.jp/0000026913.html
第2報	9月1日	津島	http://www.pref.aichi.jp/0000026926.html

インフルエンザは 2008 / 2009 シーズンの検査結果です。

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	脳炎 脳症	インフルエンザ （ 新型インフルエンザは別途）
患者数	171	23	61	16	32	13	10	306
PV-3	1							
CV-A6		4	14				1	
CV-A10		3	13					
CV-A16		1						
EV-71		3						
CV-A9						1		
CV-B3						1		
CV-B4						2		
E-9			3					
E-11							1	
E-18		1						
FluAH1							1	126
FluAH3								49
FluB								28
Rota A G1	13							
Rota A G3	4							
NV-G	1							
NV-G	35							
SV	1							
AstV	1							
Ad-1	1		1	2				
Ad-2	4		2	1				
Ad-3				7	4			1
Ad-5				1				1
Ad-31	1							
Ad-54				1				
検査中	13	3	17	1	12	2		56
陰性	97	8	11	3	16	7	7	46

略: ウイルス名(他の略名)

Ad : アデノウイルス

EV-71: エンテロウイルス 71 型

NV : ノロウイルス

AstV : アストロウイルス

FluAH1 : A ソ連型インフルエンザウイルス

PV : ポリオウイルス

CV : コクサッキーウイルス(Cox.)

FluAH3 : A 香港型インフルエンザウイルス

Rota A : A 群ロタウイルス

E : エコーウイルス

FluB : B 型インフルエンザウイルス

SV : サボウイルス

関連ページ

1) 「疾患別ウイルス検出情報」 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>

2) 「2008/09 シーズンインフルエンザウイルス分離・検出状況」

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/infbunri08_09.html

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

A型インフルエンザ2名 4歳女、5歳女
先週末下痢の兄弟カンピロバクター検出
6歳女、3歳男

【一宮市 あさのこどもクリニック】
インフルエンザA型 3歳男

【一宮市 後藤小児科】
マイコプラズマ感染症 5名

明らかなインフルエンザ陽性者がいるが、迅速テストでの反応が弱く診断に苦労している。

【一宮市 城後小児科】
インフルエンザ12名(すべてA型)。

【一宮市 一宮市立市民病院】
インフルエンザA型の高校生の学校は休校
しています。

【一宮市 医療法人かすがい内科】
インフルエンザB型 5歳女

カンピロバクター腸炎 7歳女

【稲沢市 こどものお医者さんおがわクリニック】

A型インフルエンザ5名でした。

【犬山市 武内医院】
インフルエンザA型4名(2名は同一保育園児
で、その1名の小学生の兄が罹患)
ヘルパンギーナ少なくなりました。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】
インフルエンザA。12歳男、14歳女、4兄妹
(5歳女、7歳女、9歳女、11歳男)
2歳男 川崎病疑いで入院。
ムンプス散発。

【春日町 丹羽医院】
インフルエンザA 3名

【北名古屋市 田中クリニック】
インフルエンザA型、1名。

【津島市 医療法人参育会加藤医院】

尾張東部地区

A型インフルエンザ(4歳女)1名。
【瀬戸市 津田こどもクリニック】

ヘルパンギーナ減少しました。

A型インフルエンザ1例(13歳中学1年生)。

百日咳1例(5か月女、DPT未接種)。

その他溶連菌、突発疹等。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
インフルエンザAが増えています。

RSウイルス感染症も増えてきました。

【春日井市 春日井市民病院】
A型インフルエンザ1例

【春日井市 朝宮こどもクリニック】
インフルエンザはすべてA型です。

インドネシアから帰国が1名、バスケットボールの合宿後が4名です。

【小牧市 志水こどもクリニック】
インフルエンザA型男2名ありました。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
インフルエンザはB型1名、他はA型です。

【小牧市 小牧市民病院】
3例のインフルエンザAを経験しました。
(2人は兄弟)

【春日井市 かがわこどもクリニック】
インフルエンザ6人(内1人B型)

【春日井市 医療法人聡彩会片山こどもクリニック】

35歳女 百日咳

29歳男 百日咳

【半田市 医療法人林医院】
インフルエンザA型 12名

【半田市 医療法人敬おっかわこどもクリニック】
インフルエンザ 6名(A型1名 B型5名)

【南知多町 医療法人大岩医院】
インフルエンザA型 10名

【半田市 半田市立半田病院】
盆頃よりインフルエンザ増え始めた。全てA型。

【美浜町 厚生連知多厚生病院】
インフルエンザA型です。

他に16名中9名インフルエンザであった子供あり。

テスト(-)であったが抗インフルエンザ薬投与。

【東海市 こいで内科医院】
インフルエンザA型7名(2歳1名、5歳1名、他小学生)

ヘルパンギーナは減りましたが、まだちらほらみうけられます。

ずっと続いてきたウイルス性発疹症も減りましたが、まだ若干名ありました。

【東海市 もしもしこどもクリニック】
ウイルス性発疹症1名

インフルエンザA型1名(8歳男)

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

インフルエンザA型 12歳 男
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
インフルエンザA型 3名
マイコプラズマ 1名
【豊田市 すくすくこどもクリニック】
インフルエンザA型 2名
【豊田市 厚生連足助病院】
5歳女、1歳男は兄弟でインフルエンザB型
(+)。残り3名はA型。
異型肺炎 7歳男
【岡崎市 医療法人深田小児科】
カンピロバクター(+)、病原大腸菌O1(+)
4歳男
インフルエンザ増えつつあります。
【岡崎市 花田こどもクリニック】
6か月女 病原性大腸菌O1VT(-)
11歳男、13歳女(家族内感染)A型イン
フルエンザ
ムンプスいつもより多く感じられます。
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
1歳男 病原性大腸菌O1(+)VT(-)
4歳女 病原性大腸菌O18(+)VT(-)
【岡崎市 にいのみ小児科】

2歳男 カンピロバクター
2歳女 サルモネラO1、3、19群
4歳女 病原大腸菌O1
A型インフルエンザ 1名
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
インフルエンザA型 2名
【岡崎市 栗屋医院】
インフルエンザA型 4名
【岡崎市 医療法人永坂内科医院】
インフルエンザ すべてA型
【刈谷市 医療法人豊田会刈谷豊田総合病院】
インフルエンザはA型
【刈谷市 田和小児科医院】
インフルエンザA 1名
【知立市 宮谷クリニック】
カンピロバクター 6歳女
マイコプラズマ肺炎 5歳女
アデノウイルス感染症 1歳男
サルモネラ菌 9歳女
【幸田町 とみた小児科】
サルモネラO8 1歳男
黄色ブ菌 12歳男
【西尾市 やすい小児科】

東三河地区

11歳女 カンピロバクター腸炎
4歳男 サルモネラ腸炎(O9)
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
インフルエンザすべてA(+)です。
【豊川市 豊川市民病院】

E. coli O25 2歳 女
【豊川市 ささき小児科】
インフルA(+)
【蒲郡市 蒲郡市民病院】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2009年9月2日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedeki_jun080512.pdf

結核（二類感染症）

報告保健所	2009年35週報告数			2009年累計(1～35週)		
	総数	喀痰塗抹検査陽性者数再掲	無症状病原体保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査陽性者数再掲	無症状病原体保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	15	6	1	553	152	94
豊田市	2		1	62	16	12
豊橋市	2	1		42	10	3
岡崎市	1			33	11	6
一宮	3	1	2	88	26	12
瀬戸	2	1		96	32	15
半田	1			45	11	7
春日井	3			75	22	13
豊川				34	14	6
津島				58	11	6
西尾				25	7	5
江南	1			71	18	13
新城				12	4	2
知多	4	2	1	65	20	16
師勝				34	15	2
衣浦東部	2	1		83	25	16
合計	36	12	5	1,376	394	228

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	名古屋市	39歳	女	8/22	8/24	8/27	O157、VT1(+)VT2(+)
2	豊田市	1歳	女	8/20	8/21	8/24	O157、VT1(+)VT2(+)
3	豊田市	49歳	女	8/21	8/23	8/27	O157、VT1(+)VT2(+)
4	豊橋市	14歳	男	8/19	8/20	8/24	O157、VT1(+)VT2(+)
5	岡崎市	29歳	男	8/15	8/18	8/20	O157、VT1(+)VT2(+)
6	一宮	1歳	女	8/26	8/21	8/26	O157、VT1(+)VT2(+)
7	瀬戸	2歳	男	8/15	8/16	8/19	O157、VT1(+)VT2(+)
8	瀬戸	32歳	女	-/-	8/24	8/27	O157、VT1(+)VT2(+)、無症状病原体保有者
9	豊川	50歳	男	-/-	8/21	8/24	O157、VT1(+)VT2(+)、無症状病原体保有者
10	豊川	53歳	女	-/-	8/21	8/24	O157、VT1(+)VT2(+)、無症状病原体保有者
11	豊川	27歳	男	8/23	8/24	8/27	O157、VT1(+)VT2(+)
12	知多	35歳	女	8/18	8/20	8/24	O157、VT1(+)VT2(+)
13	衣浦東部	10歳	男	8/19	8/20	8/24	O157、VT2(+)
14	衣浦東部	3歳	女	8/24	8/24	8/28	O157、VT2(+)

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

レジオネラ症（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	名古屋市	85歳	女	肺炎型	国内
2	衣浦東部	63歳	男	肺炎型	国内

急性脳炎（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病原体	推定感染地域
1	名古屋市	3歳	女	アデノウイルス6型	国内

後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	36歳	女	無症候性キャリア	性的接触	タイ
2	名古屋市	63歳	女	無症候性キャリア	不明	不明
3	豊橋市	41歳	男	AIDS	性的接触	国内

新型インフルエンザ等感染症（愛知県全体・保健所受理週別）2009年8月26日現在

新型インフルエンザ(A/H1N1) [8月25日までの感染症法第12条に基づく届出]

症例定義 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/syoureiteigi090724.pdf>

番号	報告保健所	年齢	性別	類型	推定感染地域
1	名古屋市	8歳	女	患者	国内
2	名古屋市	8歳	男	疑似症患者	国内
3	名古屋市	13歳	男	疑似症患者	国内
4	名古屋市	14歳	男	疑似症患者	国内
5	豊田市	22歳	男	疑似症患者	国内
6	豊田市	19歳	男	疑似症患者	国内
7	豊田市	20歳	男	疑似症患者	国内
8	豊田市	22歳	男	疑似症患者	国内
9	一宮	12歳	女	患者	国内
10	半田	7歳	男	患者	国内
11	豊川	4歳	男	患者	国内
12	津島	5歳	男	患者	国内
13	津島	5歳	女	患者	国内

クラスターサーベイランスに基づく集団感染が疑われる事例の発生状況については以下のページをご覧ください。

「愛知県内における新型インフルエンザの集団感染が疑われる事例の発生状況」

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/new_inf2009_4.html

9月になり、やかましかった公園のツクツクボウシが小声になり、朝夕通勤で通るJRの地下道で今年もツツレサセコオロギの音が響くようになりました。天候不順の夏でしたがグウタラしている間に過ぎてしまい、読んでない文献、雑誌は溜まるばかりです。いつも貴重な情報を有難うございます。8月後半のまとめをお送りします。

名鉄病院福田先生からは外来は夏休みに入って感染症は全般に少なく、ヘルパンギーナやアデノウイルス感染症、ウイルス性胃腸炎が比較的多く、散發的だがRSウイルス感染症とロタウイルス感染症を認め、入院を要する感染症は極めて少なくヘルパンギーナ、感染性胃腸炎の重症例、マイコプラズマ気管支炎・肺炎が主体、三菱病院入山先生からは外来ではムンプス1名、感染性胃腸炎2名(病原性大腸菌、カンピロバクター各1名)、RSウイルス感染症2名、インフルエンザなし、入院では気管支炎～肺炎6名(RS1名、マイコプラズマ1名)咽頭アデノウイルス感染症+扁桃炎1名、感染性胃腸炎(カンピロバクター)1名、中京病院柴田先生からは外来でA型インフルエンザ(恐らく新型)が目立ち、新型インフルエンザ2例入院、労災病院山田先生からは外来では細菌性腸炎、ウイルス性腸炎、ムンプス、溶連菌感染症、膿痂疹、入院では市中肺炎(マイコ、C.ニューモニエ)、感染誘発乳幼児喘息発作、川崎病1名、細菌性腸炎、ムンプス髄膜炎が目立つ、大同病院水野先生からは外来では発熱頭痛を訴える子が多く、ウイルス性、細菌性腸炎、ヘルパンギーナ増加、水痘、ムンプスもみられ、A型インフルエンザは毎日1~2名、入院では髄膜炎が入院、RS、マイコプラズマ肺炎が目立ち、感染症ではないが熱中症の入院あり、要注意、とのお手紙でした。有難うございました。

2009年8月7日(84巻32号) <http://www.who.int/wer/2009/wer8432/en/index.html>

ワクチンの安全性に関する世界助言委員会会議。09年7月17~18日。

WHOが開設したWHOと独自の立場で世界的に重要なワクチンの安全性に関する助言委員会の第20回会議。マラリア、ロタウイルス、人パピローマウイルス(HPV)、新型インフルエンザウイルス各安全性とHIV感染児の麻疹ワクチン接種安全性について検討された。

(1)実験的マラリアワクチンRTS、S/AS01の安全性:熱帯熱マラリア原虫スポロゾイト抽出C末端から約190アミノ酸にB肝ウイルスS抗原結合、アジュバント添加ワクチン。サハラ南縁諸国を中心にEPI(定期接種拡大計画)小児を主体に実施された1~3相試験の報告を検討。委員会の結論は接種人数が比較的少ないけれど安全性は許容出来そうなこと、アジュバント除去などワクチン安全性考慮がさらに必要、であった。

- (2) ロタウイルスワクチン接種年齢：09年4月、WHOのワクチン作戦助言専門家会議(SAGE)が認可されている2種類のワクチン(ロタテックとロタリックス)の有効性と安全性を検討(既報)。全ての乳児の定期接種に導入することを提言。5歳未満の小児の死因の10%以上が下痢症であるような国々で導入すべきことを強調した。ロタテックは3回接種、ロタリックスは2回接種でSAGEは接種開始を生後6~15週(最終年齢32週)とすることを両ワクチンについて提言、これにより接種率向上(初回接種50%~70%)が期待され当委員会もこの年齢拡大を支持。安全性に関し接種年齢拡大による腸重積増加の問題があるがロタワクチン非接種児の腸重積は乳児期後期に多く接種児の腸重積発病は偶発的と考えられる。今後も監視が重要である。
- (3) HPVワクチンの安全性：委員会は安全性報告をレビュー。09年3月には4価または2価HPVワクチンが>6千万回分、21ヶ国において国の予防接種または個別接種として実施された。青年男女における市販後の安全性データが公的当局とメーカーから提出され、委員会は結果を検討、安全性は良好で接種部位の局所反応と筋痛だけ。目まい、失神があることが注意事項として記載されている。妊娠直前とか妊娠中の接種と流産とは無関係という成績が得られているが委員会は今後も調査が必要と提言。委員会はHIV 侵淫地区のアフリカ諸国での調査を歓迎、背景の異なる各国での安全性調査は今後も必要である。
- (4) 新型インフルエンザワクチンの安全性評価：委員会は安全性上の問題点となりうる二点について検討：豚インフルエンザワクチン接種時に問題となった副作用としてのギラン・バレー症候群(GBS)とアジュバント添加。GBS：1976年、米合衆国で豚インフルエンザワクチン接種後8週に少数であるが重視すべきGBS発症、接種10万当り1例。原因不明。新型A(H1N1)ワクチンは豚型ウイルスの遺伝子分枝を含むので委員会として重視。その後、1976年以降の季節性インフルエンザワクチンによるGBS合併はゼロないし100万接種当り1例と稀であるが新型ワクチン接種に当り広く一般的なプロトコールに従ったサーベイランスが必要で、その準備が急務であると委員会は勧告。途上国などにおけるポリオサーベイランスで重要な急性弛緩性麻痺(AFP)との関連も討論された。アジュバント添加：3歳未満小児や妊婦などなどにおけるアジュバントの副作用についてはまだ明確になっていない。アジュバントを添加するのは初回か追加接種かとか、アジュバントと自己免疫疾患とか、データは得られていない。その他：A(H1N1)ワクチン株の選択、ワクチン製造法などに関し季節性インフルエンザワクチンに準じた認可のための条件検討が急務である。接種開始後の安全性・有効性監視サーベイランスシステムの構築を各国はチェックすること。
- (5) HIV感染児に対する麻疹ワクチンの安全性：委員会は09年2月までに出されている8データベースと723編の論文をレビューした。まとめ：得られたエビデンスでは麻疹ワクチンはHIV感染児に重篤な副反応をおこしていない。何百万接種がHIV陽性児に実施され1例だけが重症副反応報告。要確認。HIV感染児の方がHIV陰性児よりも死亡率が高いが、この差は麻疹ワクチン接種と関係なし。多くのHIV陽性児で麻疹ワクチン接種後の抗体獲得良好。追加接種の必要性については要検討。文献レビューから委員会はHIV陽性児に対する麻疹ワクチン接種に関するWHOの勧告の変更に必要性を認めないと結論。CDリンパ球数低値など重症免疫不全では麻疹ワクチン接種は禁忌であるとWHOは勧告。今後の研究としてHIV陽性児の肺炎に占める麻疹と麻疹ワクチンの重要性やほとんど報告が得られていない高度活性抗レトロウイルス治療(highly active antiretroviral treatment, HAART)が麻疹ワクチン接種に与える影響とか、HIV陽性児への麻疹ワクチン追加接種の問題がある。

ハンセン病。09年の世界の状況。

ハンセン病コントロールの主要原則は新規発病例の時機を得た発見と早期の多剤併用治療(multidrug therapy, MDT)である。この原則は常在地で広く履行、全ての例は無料MDTとなっている。各国とも末端までのプライマリヘルスケアシステム網がはりめぐらされ、地域センターでの診断と治療、合併症の予防が実施されている。

<ハンセン病の疾病負担> 09年、121カ国(地域)から報告あり、31カ国がアフリカ、25カ国が南北アメリカ、10カ国が東南アジア、22カ国が東地中海、33カ国が西太平洋各地域となっている。08年年間新規例は121カ国から249,007例だった(地域別の表あり)。02~08年の新規例数は減少傾向で(表あり)、07年/08年比で3.54%減。08年に1,000例以上の新規例があったのは17カ国で、この17カ国で世界全体新規例の94%を占めていた(表あり)。新規例中の多菌型(MB)、小児、女性、2度以上の障害者の占める割合は地域・国でまちまちであった:例えば新規患者数最多の東南アジア地域でMBがバングラデシュ45%~インドネシア87%、女性がインド35%~タイ42%、小児がタイ3%~インドネシア11%、2度以上の障害者がインド3%~ミャンマー13%であり、次に多い南北アメリカ地域ではMBがボリビア39%~メキシコ78%、女性がアルゼンチン7.2%~キューバ46%、小児がアルゼンチン0.5%~ブラジル7.5%、2度以上の障害者がアルゼンチン3%~コロンビア10%であった(他の地域:略。09年初頭の登録患者数、新規患者数、新規患者のMB数、2度障害者、再発例の国別一覧表あり)。

<登録患者数の多い国> インド86,331例、ブラジル41,817例、インドネシア21,538例、ナイジェリア6,906例、コンゴ共和国4,832例、エチオピア4,238例、バングラデシュ3,928例、ネパール3,644例、中国3,388例、フィリピン3,338例などであった(国別一覧表あり)。

愛知県感染症情報

2009年35週 (2009年8月24日 ~ 2009年8月30日)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	*インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																		
愛知県																							
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	52	17	10	453	16	77	421	74	43	5	149	8	255	103	0	7	0	0	6	1
総数 (名古屋市を除く)	125	112	24	37	12	6	342	12	55	286	57	33	4	114	7	186	79	0	5	0	0	6	1
名古屋	70	70	11	15	5	4	111	4	22	135	17	10	1	35	1	69	24		2				
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1		18	2	7	13	3	3	6	1	13	4				1	1	
海部津島	津島	7	7	2	2	1		29	5	9	59		1	8		6	5		2			2	
尾張中部	師勝	4	4	1	1			18			5						2						
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1		29		12	32	10	6	17	2	22	4					3	
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	4	55	3	4	21	6	5	3	9	26	8						
	江南	6	6	1	2			9		2	22	7		9		19	3		2				
知多半島	半田	6	6	1	2	1	1	48		3	13	3	2	5	4	2	9						
	知多	7	7	2	2			30	1	1	21	5	4	7		16	5						
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1		18	1	1	8	11	4	13		24	6						
	衣浦東部	13	13	2	4	1		26		8	34	5	1	14		21	8						
	西尾	5	5	1	2	1		4		1	12		2	3		2	5						
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	1		27		5	10	2	1	11		19	14		1				
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1		18		1	16	4	2	5		2	4						
	豊川	9	8	1	2	1	1	11		1	20	1	3	7		12	2						
東三河北部	新城	2	2			1		2								2							

*新型インフルエンザ(A/H1N1)を合わせた報告

愛知県感染症情報

2009年35週(2009年8月24日～2009年8月30日)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	*インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び エンザ等感染症を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
計	6	342	12	55	286	57	33	4	114	7	186	79	0	5	0	0	6	1
～6ヶ月	3	1			5	3	1		4	1								
～12ヶ月	1	4	1		35	6	2		56		19	2						
0歳																		
1歳	2	9	3	2	44	7	12		49		54	1					1	
2歳		14	2	2	40	9	7		5		37	8						
3歳		14	1	8	21	16	6	1			27	11					1	
4歳		11	1	10	20	4	1	1			23	13						
5歳		23	2	10	16	10	1	1			10	17						
6歳		18	2	6	13	1		1		1	9	10						
7歳		18		3	8						3	1						
8歳		14		3	14	1					1	7						
9歳		12		2	9							4						
5歳～9歳																	2	
10歳～14歳		77		5	15		2				1	4						1
15歳～19歳		43			9						1							
20歳～				4	37		1			5	1	1						
20歳～29歳		35												1			1	
30歳～39歳		23												3			1	
40歳～49歳		17												1				
50歳～59歳		3																
60歳～69歳		4																
70歳～																		
70歳～79歳		2																
80歳以上																		

*新型インフルエンザ(A/H1N1)を合わせた報告

愛知県感染症情報

2009年35週(2009年8月24日～2009年8月30日)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	*インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び エンザ等感染症を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
計	6	342	12	55	286	57	33	4	114	7	186	79	0	5	0	0	6	1
～6ヶ月	3	1			5	3	1		4	1								
～12ヶ月	1	4	1		35	6	2		56		19	2						
0歳																		
1歳	2	9	3	2	44	7	12		49		54	1					1	
2歳		14	2	2	40	9	7		5		37	8						
3歳		14	1	8	21	16	6	1			27	11					1	
4歳		11	1	10	20	4	1	1			23	13						
5歳		23	2	10	16	10	1	1			10	17						
6歳		18	2	6	13	1		1		1	9	10						
7歳		18		3	8						3	1						
8歳		14		3	14	1					1	7						
9歳		12		2	9							4						
5歳～9歳																	2	
10歳～14歳		77		5	15		2				1	4						1
15歳～19歳		43			9						1							
20歳～				4	37		1			5	1	1						
20歳～29歳		35												1			1	
30歳～39歳		23												3			1	
40歳～49歳		17												1				
50歳～59歳		3																
60歳～69歳		4																
70歳～																		
70歳～79歳		2																
80歳以上																		

*新型インフルエンザ(A/H1N1)を合わせた報告